明治神宮外苑の再生と新国立競技場整備計画に対する　景観・ランドスケープからの提案

一般社団法人　ランドスケープコンサルタンツ協会

私達は、ランドスケープの技術と知識を活かして「緑豊かで美しい都市環境の創造」に向けた活動を行っている職能団体であり、また、私達の大先輩（折下吉延氏）は、造園技師として神宮の杜の造営に携わってきました。　今回、景観・ランドスケープ計画の視点から、明治神宮外苑の再生と新国立競技場整備計画に関して、以下の提案を行います。

目　次

1.　検討の前提として意識すべき神宮一帯の土地の特性・記憶 2

2.　計画の基本的考え方 3

2.1　地区特性に即した計画 3

2.2　日本学術会議の提言（H27.04）の継承 3

3.　明治神宮外苑一体と新国立競技場の整備に向けた提案 4

3.1　外苑地区の総合的な土地利用計画 4

3.1.1　再開発エリアの設定 4

3.1.2　センター地区（オリンピック広場）の整備 5

3.1.3　絵画館前広場の再整備 6

3.2　新国立競技場周辺について 7

3.2.1　新国立競技場への提案 7

3.2.2　渋谷川の再生と谷筋の杜の形成 8

3.2.3　多目的機能を備えたサブトラックを常設 9

3.2.4　周辺施設との連携強化 10

4.　計画イメージ図 11

4.1　地上部平面図 11

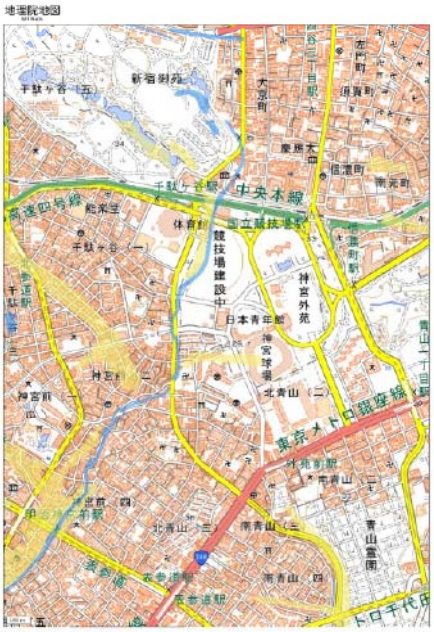
4.1.1　全体図 11

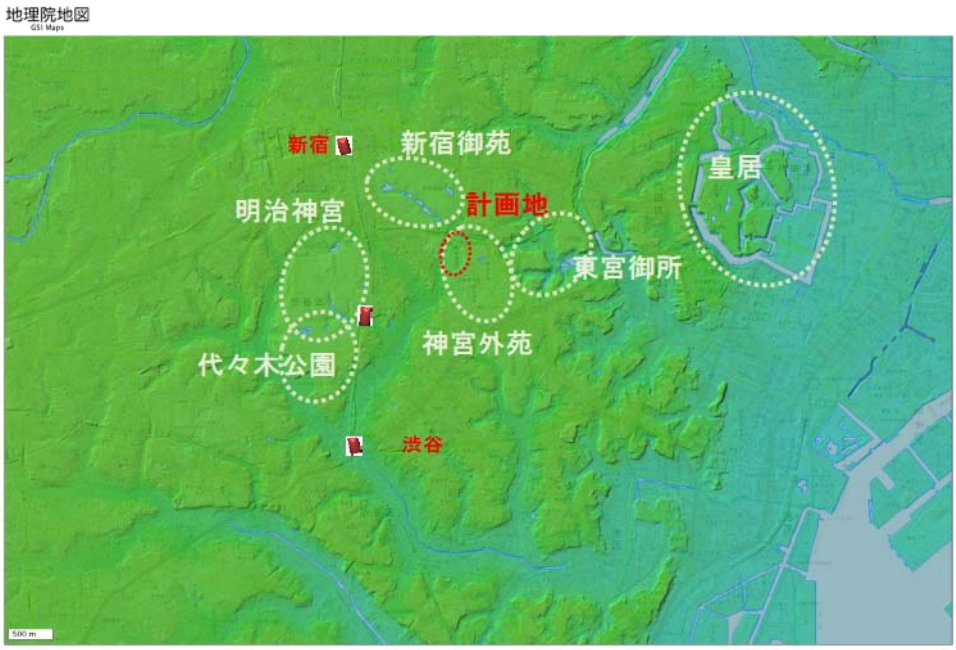
4.1.2　主要部 12

4.2　地下部平面図・断面図 13

1. 計画の前提として意識すべき明治神宮一帯の土地の特性と記憶

- **皇室ゆかりの施設や明治期からの歴史を伝える首都東京の歴史文化地区**
  - 明治神宮、東宮御所、旧宮家邸、聖徳記念絵画館、皇室の庭園として造られた新宿御苑、帝国陸軍施設跡、明治期からの多くの著名人の墓がある青山霊園、旧大名屋敷跡、大学、その他数多くの神社や墓地
- **国民スポーツの歴史を創ってきた施設が集積するスポーツ活動のメッカ**
  - 国立競技場、神宮球場、秩父宮ラクビ―場等
- **地形上の骨格に位置する首都東京の緑地・景観拠点**
  - 武蔵野台地の尾根部先端に位置し、皇居、明治神宮内苑・外苑、東宮御所、新宿御苑、代々木公園等の大規模緑地が集積
  - 明治神宮一帯は、我が国初（大正 15 年）の風致地区が指定されている場所
- **ランドスケープレガシーの集積地**
  - 人工的に造られた明治神宮の杜、国民公園である新宿御苑、景観軸のイチョウ並木、都会の森づくりの代々木公園





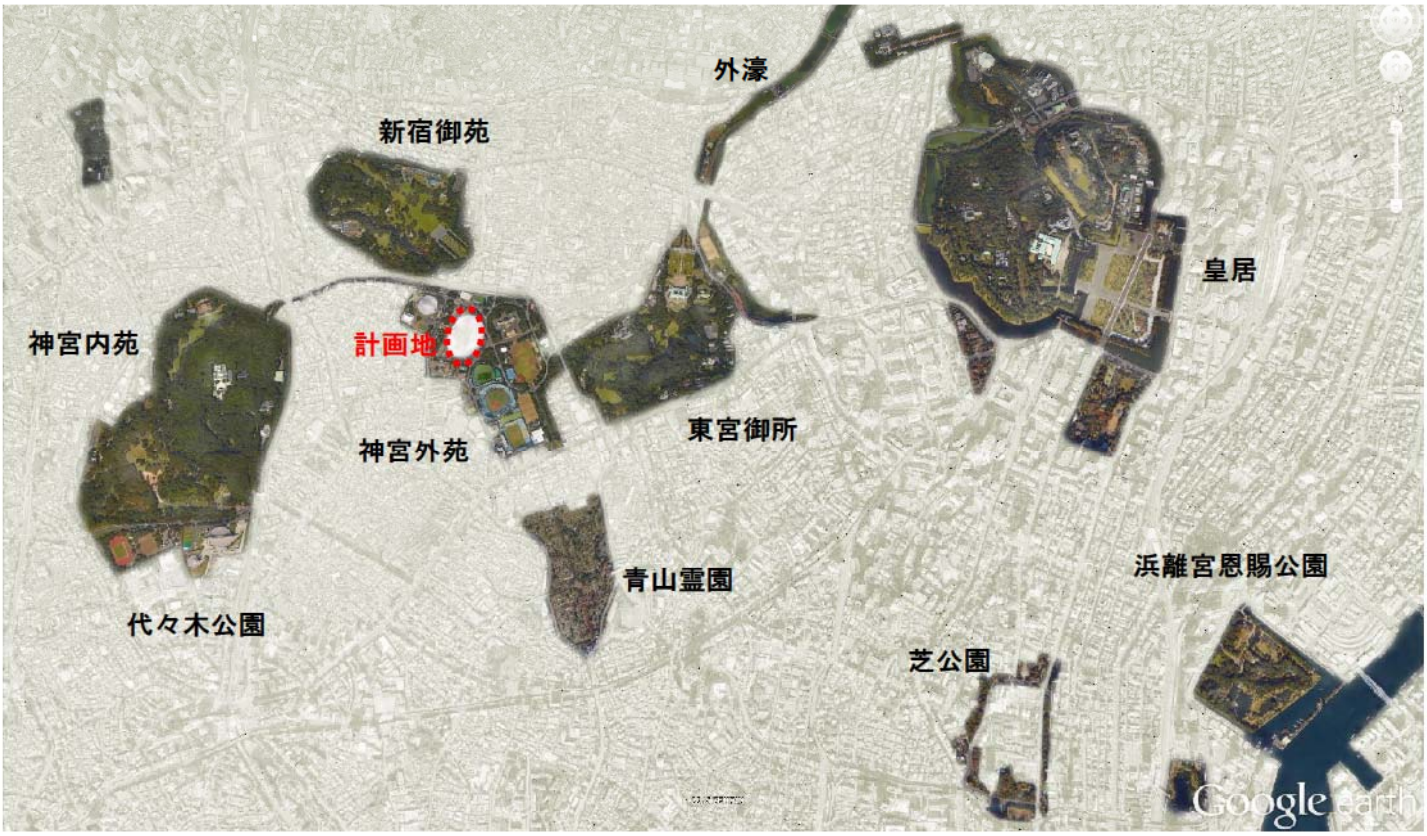
■左：「明治期の低湿地データ」※　渋谷川（青）と水田（黄）／右：色別標高図
※明治期に作成された地図から当時の低湿地の分布を抽出したもの。左右とも国土地理院「地理院地図（電子国土 web）」に加筆

2. 計画の基本的考え方

2.1 地区特性に即した計画

前掲した明治神宮一帯の土地の特性と記憶を活かすことを念頭に、次のような視点が必要。

① 明治神宮一帯の「水と緑のネットワーク」を意識した、都会の杜を保全し創出する
② 風致地区にふさわしい、建築物と緑の杜の調和を図る
③ オリンピックレガシーとなるフルスペックの施設整備と、公園的利用が楽しめるオープンスペースを確保する
④ 周辺部の公園緑地や鉄道駅と外苑地区施設を効率的に連絡する、歩いて楽しめるバリアフリー動線を整備する



■神宮外苑周辺の大規模な緑の立地状況

2.2 日本学術会議の提言（H27.04）の継承

本提案は、日本学術会議・環境学委員会・都市と自然と環境分科会による「神宮外苑の環境と新国立競技場の調和と向上に関する提言(平成 27 年 4 月 24 日)」の意図を受け継ぐ形でとりまとめたものである。この日本学術会議による提言は、既に白紙撤回となった≪ザハ案≫に対して行われたものであるが、環境配慮を高めようとする以下のような骨子は、今後新たな計画を進める際にも活かすべきものと考える。

① 人工地盤を見直し、神宮の森の生態系の特質を踏まえ、大地に根ざした水循環を可能とする「本物の森」を創り出す
② 渋谷川の清流を復活させ、熱環境・景観の改善をはかり、健全な水循環を回復し生態系の回廊を形成していく
③ 水と緑の神宮外苑再生と将来ヴィジョン策定委員会を立ち上げる

3. 明治神宮外苑地区一体と新国立競技場の整備に向けた提案

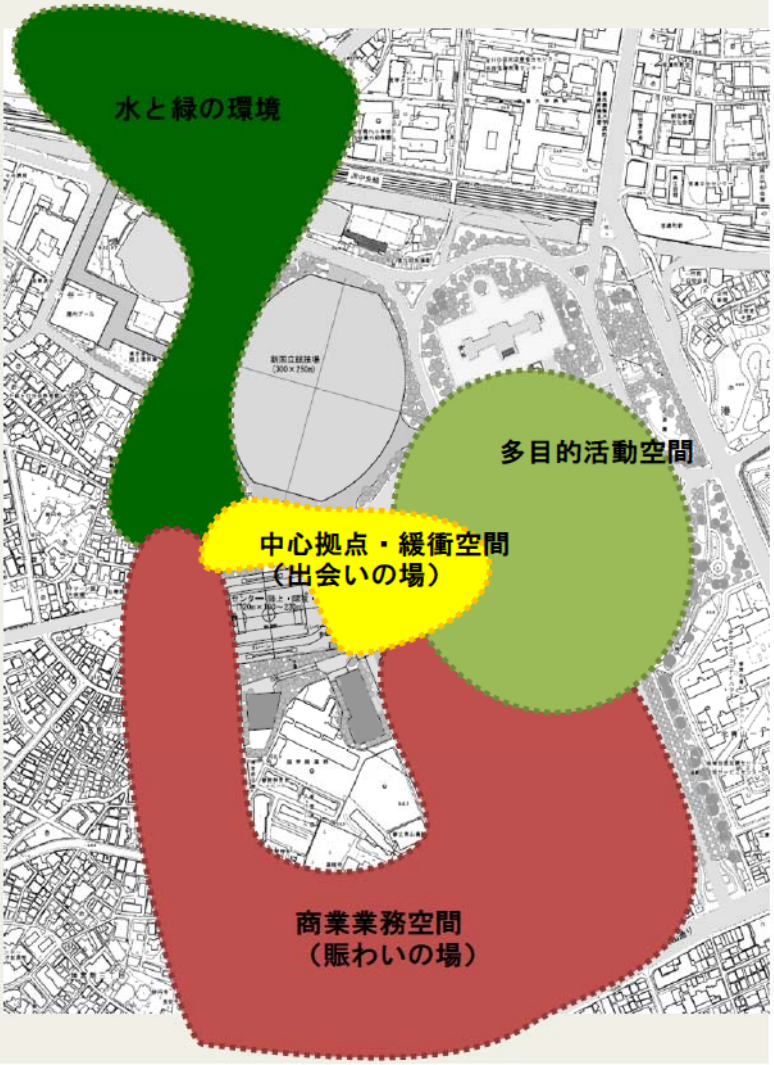
3.1 外苑地区の総合的な土地利用計画

- 神宮外苑地区については、新国立競技場以外にも神宮球場・秩父宮ラグビー場・テニスコートなど種々のスポーツ施設が集積しており、こうした施設と商業業務エリアを含めた再開発も検討されている。このため、個々のエリアごとに考えるのではなく、**神宮一帯の歴史的・空間的な特性を踏まえ、50 年 100 年先のあるべき全体像を見据えて総合的な土地利用計画を作成**し、新国立競技場建設と連携した合理的・一体的な整備を行っていくべきである。
- 現状では、大規模な競技大会やイベント開催時に**利用者が離合集散する場が極端に不足**している。また**多様な施設を束ねる外苑地区全体としての利用拠点もあいまい**であることから、新国立競技場整備と地区の再開発を契機に、**地区中央部に核となる空間を確保**することも望まれる。

- **【施設群をコンパクトに集積】**　**将来予定されている神宮球場と秩父宮ラクビ―場の配置入れ替えを含む再開発**にあたっては、個別の独立した施設としてではなく、スタンド部の建築の一部を一体化するなど**相互連携を強化する**ことで、機能と魅力を高めながら**全体をコンパクト化**して、**土地の効率的な活用**を図ることが望まれる。
- **【開発と保全／区分と連携】**　**土地利用を高度化し「にぎわい創出」を目指す**青山通り沿いの南側ゾーンと、**風致の維持を意識すべき**北側ゾーンの間を区分する一定の緩衝帯を何らかの形で確保する必要がある。一方で漸層的に変化する一連の空間として南北を結びつけるストーリー設定と魅力づくりが求められる。

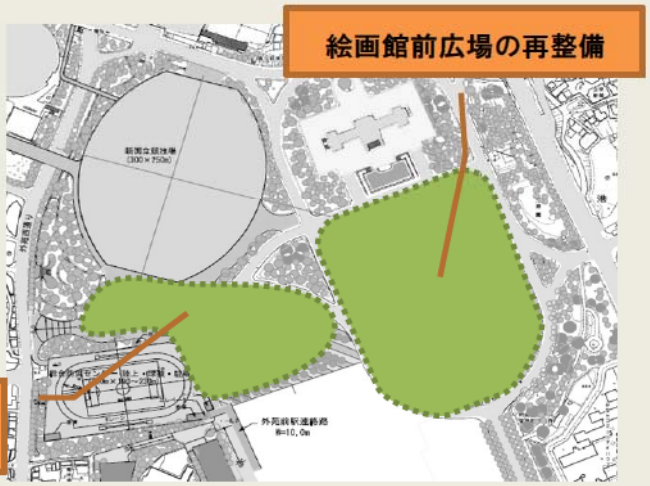
3.1.1 再開発エリアの設定

神宮球場と秩父宮ラグビー場のあるエリアについては、配置入替えなどを含めた**再開発エリア**とし、将来的に青山通りや外苑前駅からのアクセスルートと連携した**「にぎわい創出」を目指しつつ、神宮の杜としての風致を維持する**ように計画する。

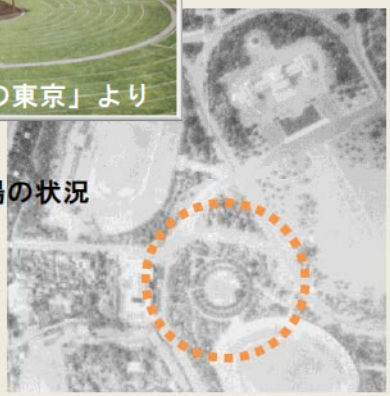


3.1.2 センター地区（オリンピック広場）の整備

・ **【中心拠点の確保】** 再開発に合わせて、神宮外苑の中心部にあたる神宮第二球場の位置を、都会の森と多目的広場機能を持つセンター地区（オリンピック広場）として再整備することが望まれる。これにより、平常時においても外苑地区全体の利用の核となる象徴的空間を確保することができる。また南側の賑わい空間と北側の水と緑の空間を緩やか区分しながら結びつける空間としても効果的である。



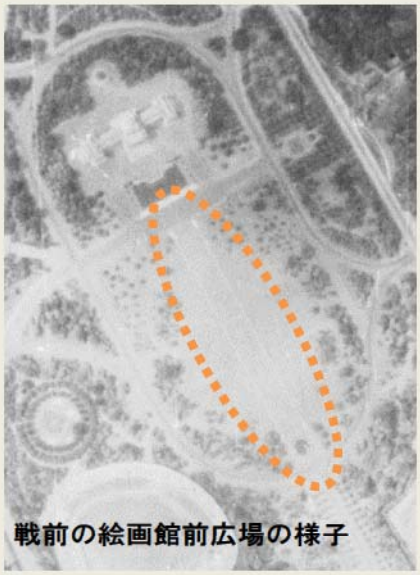
・ **【歴史的意匠を活かした象徴性の強調】** 中心核を整備するにあたっては、「神宮」の歴史的な性格付けを踏まえて、かつてこの場所に存在した相撲場のデザインを取り入れた象徴的な形状が考えられる。


戦前の相撲場の状況

歴史的意匠を活用した
広場のイメージ

3.1.3 絵画館前広場の再整備

・ **【歴史的意匠の再生】** 再開発に伴って既存建築施設の移設が検討されている絵画館前の広場については、中心軸を強調した**整備当時の象徴的なデザインに回帰し、歴史的文化的価値を高める**ことが望まれる。



・ **【多目的広場化】** 野球利用者のための空間を一部確保しつつ、**誰もが自由に緑の環境の中で憩い、様々なスポーツレクリエーション活動を楽しめる広場**としての整備が望まれる。

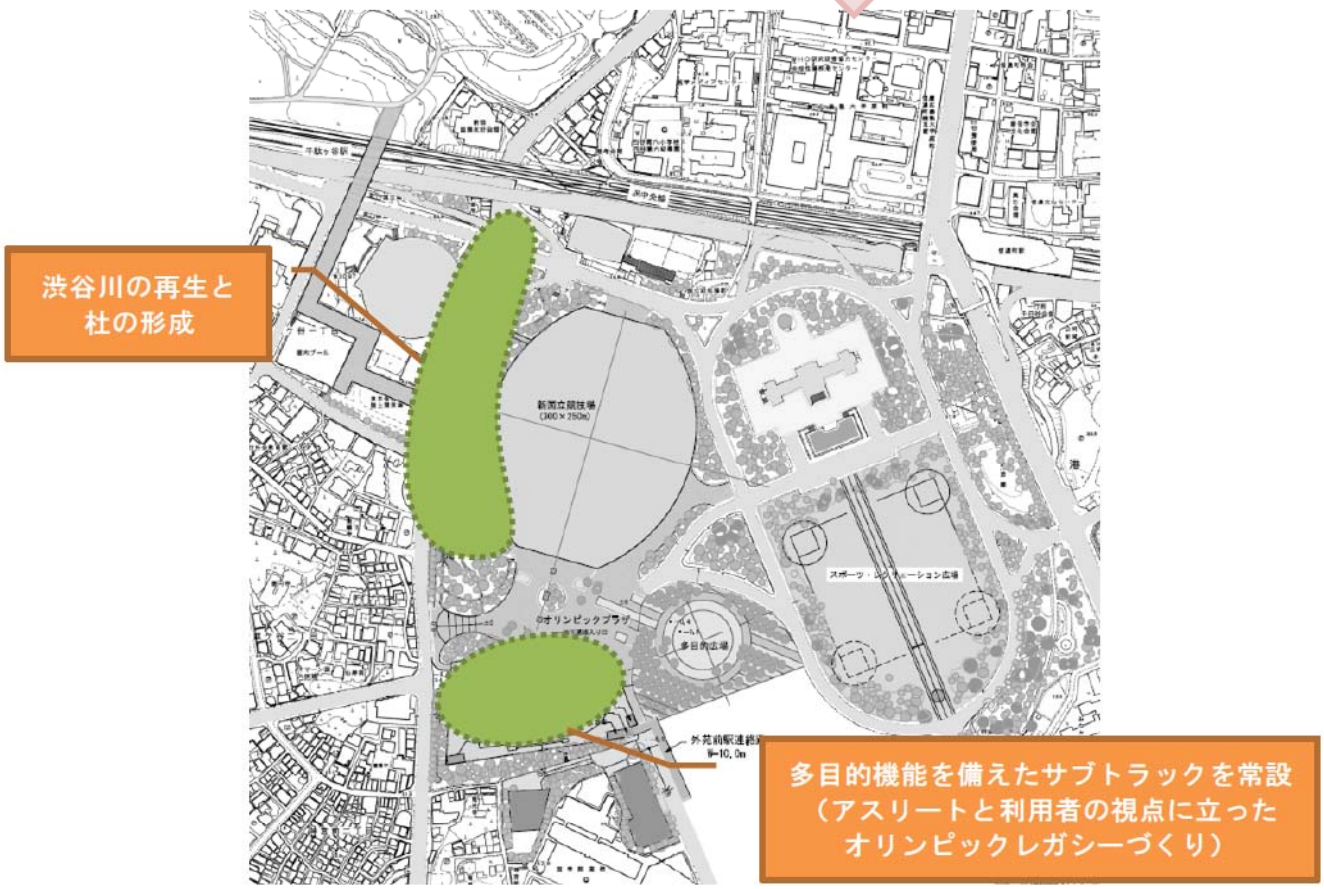
3.2　新国立競技場周辺について

- 新国立競技場建設が「世界に誇れる日本の建設技術」を示す機会となるとすれば、そのポイントの一つとして、**日本ならではの巧みな『環境の保全創出技術』**を意識することが有効だと考える。
- そのためには神宮の杜の特質を踏まえ、**生態系の保全創出・水循環の回復、歴史文化的景観の保全など、多面的な視点から環境を尊重する東京の姿勢を世界に示す**ことを念頭に、スペース効率を追求しコンパクトな外形の中にゆとりと魅力に富んだ空間を創出する工夫が求められる。

3.2.1 新国立競技場への提案

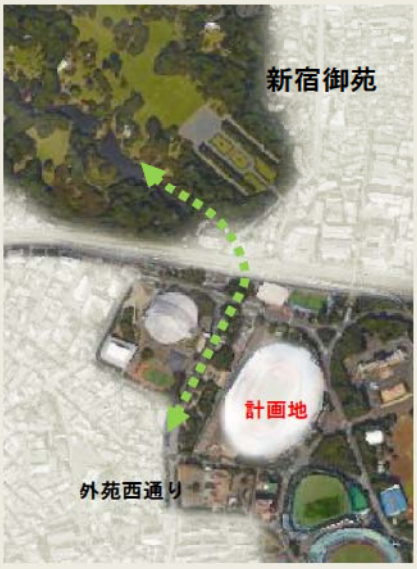
- **【建物高の抑制】**　トラック部分の計画高を谷筋の外苑西通りと同程度に抑えるなど、**斜面地形に埋め込む形として、競技場の高さを周辺から概ね 40m程度の高さに抑える**ことが望まれる。
- **【地上部の面積低減／既存樹の保全】**　**現存する古木・大木を極力保全し、必要に応じて移植を行う**など、永続する神宮の杜の中に佇む建築物として周辺に調和した**風致地区にふさわしい環境・景観を維持**する。これは盛夏の『おもてなし』として涼を提供するためにも重要である。

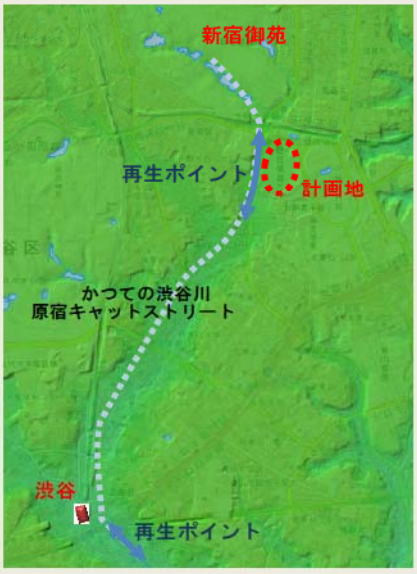
こうした配慮を行うことで、
以下のような環境整備を一体的に進めることが可能となる。



3.2.2 渋谷川の再生と谷筋の杜の形成

・ **【水と緑の回廊づくり】** かつて渋谷川が流れていた谷筋にあたる**外苑西通り沿いに流路を再生し、潤いに満ちた憩いの場として整備**する。神宮の杜の特性に即した生物多様性の維持向上に寄与する**生態的回廊形成に加え、新宿御苑・神宮内苑など周辺の緑に連なるシンボル**となり、**環境・利用の両面でのネットワーク強化**が期待される。





・ **【クールアイランドの形成】** 渋谷川再生による水循環回復と一体で谷筋にまとまった樹林地を形成することで、極めて過酷なものになると推定される**オリンピック開催時の盛夏における熱環境改善への寄与**が期待される。

・ **【広域的な連携】** 渋谷駅周辺の再開発と一体で計画されている渋谷川再生とも呼応し、**広域的な歩行者ネットワークの形成**にも寄与する。

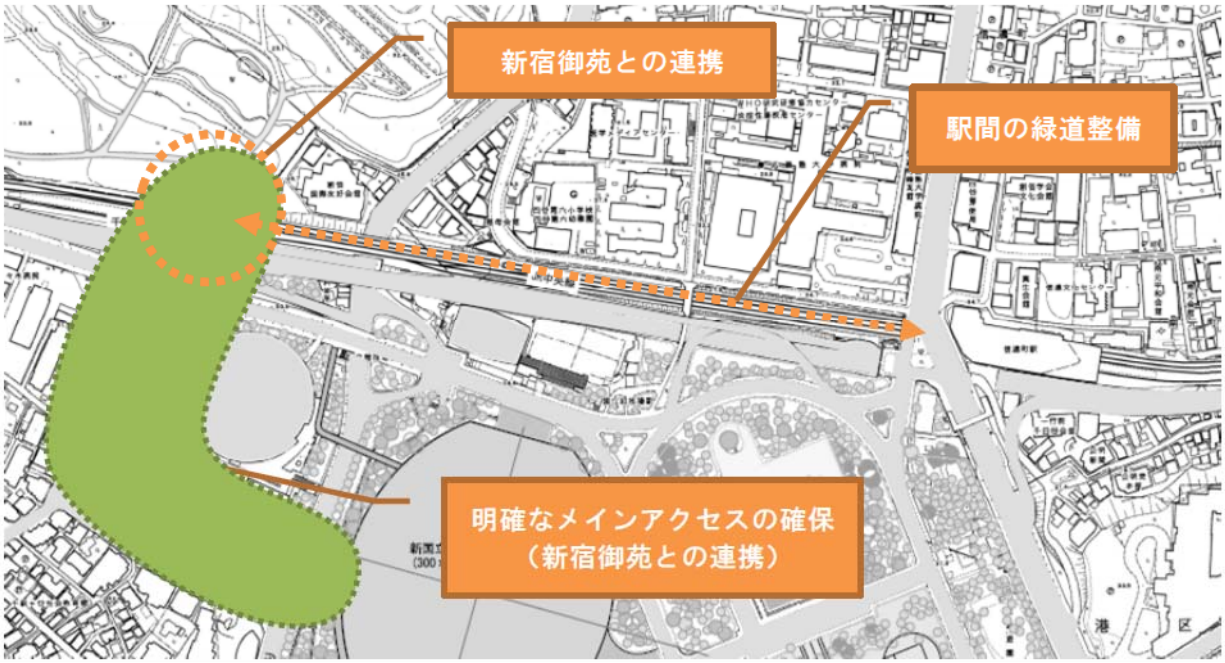
3.2.3 多目的機能を備えたサブトラックを常設
（アスリートと利用者の視点に立ったオリンピックレガシーづくり）

- **【常設サブトラックを確保】** 新国立競技場本体をコンパクト化（主に南北長を低減）できれば、**南側に拡張予定の都立明治公園敷地に常設サブトラックの整備**も可能となる。オリンピック後も国際競技大会に対応できるフルスペックの競技施設とすることができる。
- **【多様な利用空間の形成】** サブトラックは、平常時は一般市民も利用できる緑豊かな**多目的スポーツ空間**として活用するほか、**災害時の避難場所・広域防災拠点としての機能**も確保する。

- **【立体公園として地下空間を活用】** 立体都市公園制度を適用し、地形特性（隣接する外苑西通りとの高低差約 8m）を生かした地下空間の活用を検討する。**収益を生む地下駐車場**とするほか、**災害に備えた備蓄庫や救援物資の荷捌きスペース等としての活用**も想定される。

3.2.4 周辺施設との連携強化

- 現状ではＪＲ千駄ヶ谷駅方面から新国立競技場に向かうアクセスルートが狭く不明瞭で、オリンピック開催時には相当な混乱が予測される。
- また新宿御苑が北側に隣接しているものの神宮外苑地区と一体的に利用する連携動線が弱く、ポテンシャルを生かせていない。



周辺施設との連携強化／快適なアクセスルート（歩行空間）の整備

- **【明確なメインアクセスの確保】**　東京体育館脇を経由し外苑西通りをまたぐ**ペデストリアンデッキで新国立競技場にいたるアクセスルート**を快適でゆとりのある歩行空間として整備することが望まれる。
- **【新宿御苑との連携】**　新国立競技場に向かうメインアクセスを**地下化して駅北側に延伸し、新宿御苑の千駄ヶ谷門に連結**することも考えられる。
- **【駅間の歩行ルートの改善】**　ＪＲ千駄ヶ谷駅の改築を検討するとともに、同駅とＪＲ信濃町駅を結ぶルートを緑豊かな歩行者専用路として整備することも望まれる。

4. 計画イメージ図

4.1 地上部平面図

4.1.1 全体図

4.1.2 主要部

新宿御苑との連携
千駄ヶ谷駅
千駄ヶ谷駅へのアクセス強化（アンダーパス）
JR中央線
首都高速4号新宿線
スケート場
千駄ヶ谷駅へのアクセス強化
屋内プール
神宮森の生態系を主とした地域
絵画館
新国立競技場
（300×250m）
神宮森の生態系を主とした地域
外苑西通り
池
スポーツ
レクリエーション
広場
オリンピックプラザ
地下通路入り口
多目的広場
総合防災センター（陸上・球技・駐車場）
（120m×190～230m）
トイレ
エレベーター
倉庫
8レーン
外苑前駅連絡路
W=10.0m
国学院高校
0
50
100
150
200m

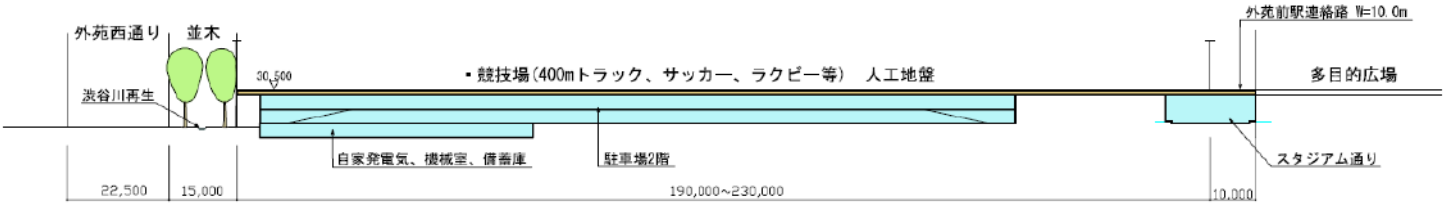
4.2 地下部平面図・断面図

多目的広場

大規模大会時	平常時	災害時
・観客集合場所(約1万人)	・健康広場として活用、ジョギング、散策等の集合場所 ・イベント広場、野外劇場	・避難場所

サブトラック／総合防災センター
(陸上・球技場・駐車場)

大会時(本競技場使用時)	平常時	災害時
・陸上・サッカー・ラクビー等、ウォーミングアップ、練習場 ・投てき競技については別途の用地確保が必要(オリンピック時) ・【地下部】駐車場、ランニング場	・健康広場として一般開放 ・陸上、サッカー等の試合 ・【地下部】駐車場は関係者+一般利用(大型バス20台+普通車500台)	・災害時は救護物資等の荷捌きスペース ・避難場所、医療活動拠点、トイレ ・【地下部】B1:自家発電気、機械室、備蓄庫



A-A' 断面図